



シリーズ 「私たちの思い」

沼 洋一 (ぬま よういち)

柏崎刈羽原子力発電所
防災安全部 原子力安全センター
防災安全グループマネージャー
昭和61年入社 福島県出身

私は、東京電力が運営していた技術者養成の学校に進学し、卒業後、柏崎刈羽原子力発電所に配属されました。先輩たちから「世界に誇れるくらいカッコよくて、地域から愛される発電所をつくらう」と言われたのが心に残っています。私はその言葉を胸に、2、7号機の建設に携わりました。

中越沖地震が起きたとき、私は柏崎の自宅にいました。突き上げるような大きな揺れが収まり、家族の無事を確認した後、居てもたってもいられず発電所へ向かいました。緊急時対策所で缶詰めになって、発電所設備の点検結果などのとりまとめを行っており、屋外に出て自分の目で発電所の状況を確認することができたのは、震災から3日後でした。3号機の変圧器火

災によって黒くなった建屋の壁や、大きくうねった構内の道路を目の当たりにして、大きな衝撃を受けるとともに、地域から愛される発電所を目指してきたものとして、悲しさ、くやしさと胸がしめつけられました。

地域の皆さまの安心のため、 仲間たちと取り組みを進める

私は福島出身ですが、柏崎刈羽で会社生活の大半を過ごし、ご近所や子供の保護者会などの縁で沢山の知り合いができました。第二の故郷である新潟の皆さまに、中越沖地震での対応や福島第一原子力発電所の事故などで、ご心配とご不安をおかけしていることを本当に申し訳なく思っています。

現在、私は、緊急時を想定した総合訓練や、発電所の初期消火を担う自衛消防センターの対応などに携わっています。自衛消防センターでは、中越沖地震の反省をふまえて油火災のための化学消防車を新たに配備したり、協力企業と連携して24時間の待機態勢を整えるなど、対応力強化に努めてきました。しかし、これがゴールだとは考えていません。東京電力、協力企業の垣根なく、自由にコミュニケーションをとり、もっと良い方法は無いか、隠れたリスクや課題は無いかなどを日ごろから話し合うようにしています。

防災の仕事は、発電所やそこで働く人のためだけではなく、地域の皆さまの安全・安心につながる大切な仕事です。皆さまに安心して頂けるような発電所をつくっていくために、仲間たちと共に、これからも取り組みを進めていきます。



平成29年7月撮影

昨日より今日、今日より明日。私たちは、より高い安全レベルを目指し挑戦を続けます。

シリーズ「私たちの思い」は、WEBでもご覧いただけます。

TEPCO 新潟本社  <http://www.tepco.co.jp/niigata/index-j.html>



東京電力ホールディングス 新潟本社
025-283-7461
9:00~17:00 (土日・祝日・年末年始除く)

